

ユネスコスクール（ASPNet）アンケート結果

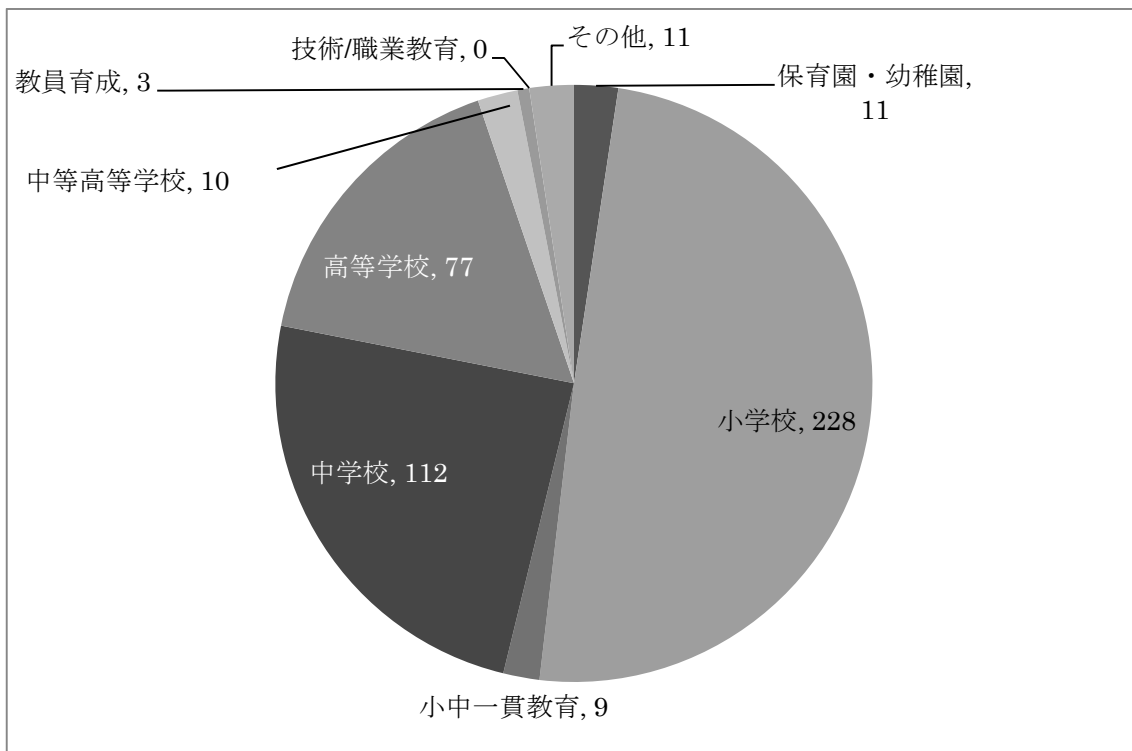
アンケートの概要

1. 目的 ASPNet 加盟校の教育実践や現場の実態、問題点を継続的に把握することにより、ASPNet の活動の更なる改善、充実を図るものとする。
2. 調査対象 国内の ASPNet 加盟校 550 校
3. 調査方法 対象校へ電子メールにてアンケートと活動報告書を送付。電子メール、FAX、郵送にて回収。
4. 調査期間 平成 25 年 2 月 18 日～平成 25 年 3 月 29 日
5. 回答状況
 - 発送数： 550 校
 - 回答数： 466 校
 - 回答率： 84.7%

学校種別

- 保育園・幼稚園
- 小学校
- 小中一貫教育
- 中学校
- 高等学校
- 中等高等学校
- 教員養成
- 技術／職業教育
- その他

・ 幼小中高一貫校、小中高一貫校、中高一貫教育、中等教育学校、併設型中高一貫校、高等専門学校、特別支援学校

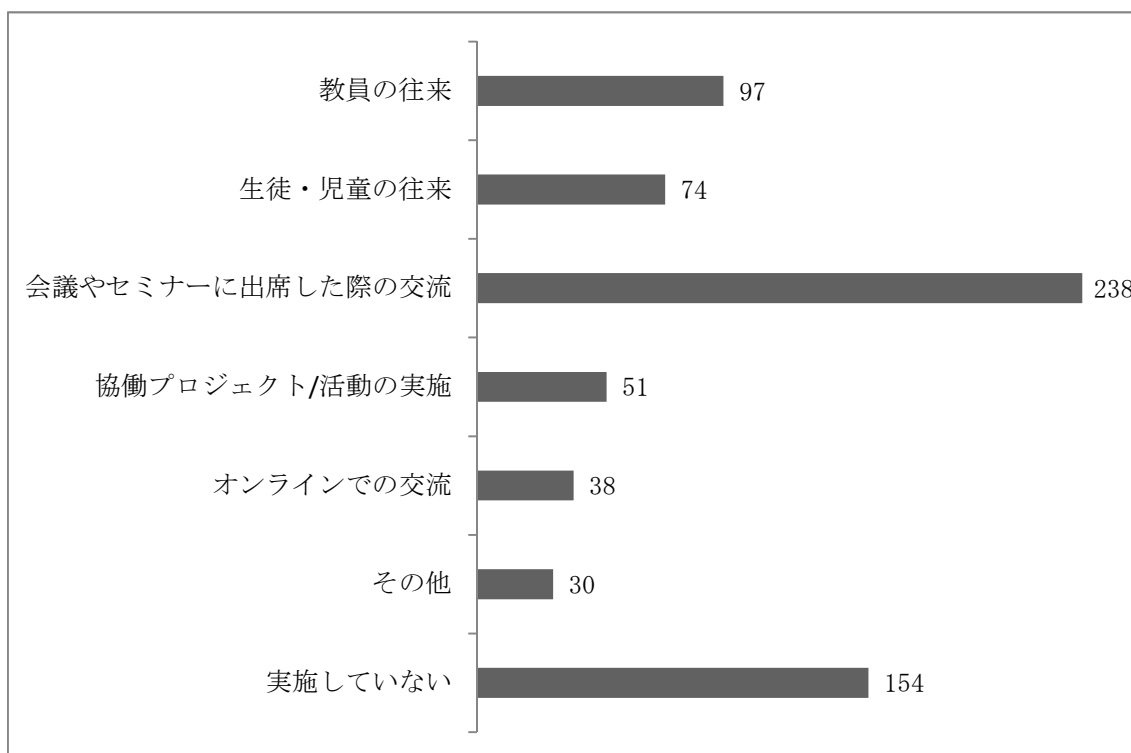


本年度のユネスコスクール活動

1. ユネスコスクール相互間のネットワークについて

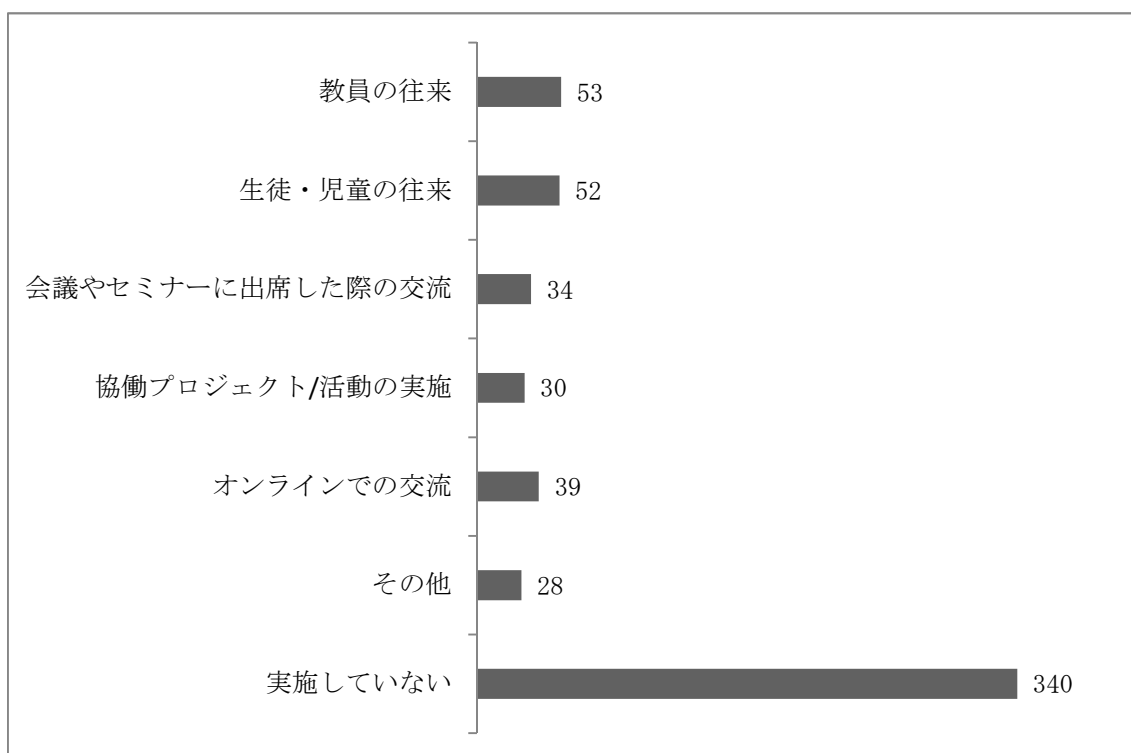
(1) どのように国内の学校と交流しましたか。(複数回答可)

- 教員の往来
- 生徒・児童の往来
- 会議やセミナーに出席した際の交流
- 協働プロジェクト/活動の実施
- オンライン（フォーラム、チャット、電子メール等）での交流
- 実施していない
- その他（自由記述）
 - ・ 文書、手紙、新聞、DVD、ビデオレター、ホームページ、テレビ会議での交流
 - ・ 育てた作物などを通じた交流
 - ・ ESD 国際交流プログラムへの参加
 - ・ ユネスコスクール子どもサミット（市事業）
 - ・ 教員向け研修会への参加、他校から講師を招いた勉強会の実施
 - ・ 他県のユネスコスクールを視察
 - ・ 市内及び近隣のユネスコスクール加盟校、その他の学校との会議
 - ・ 物資援助、募金活動



(2) どのように海外の学校と交流しましたか。(複数回答可)

- 教員の往来
- 生徒・児童の往来
- 会議やセミナーに出席した際の交流
- 協働プロジェクト/活動の実施
- オンライン（フォーラム、チャット、電子メール等）での交流
- 実施していない
- その他（自由記述）
 - ・文通、電子メール、DVDレター、テレビ会議
 - ・海外修学旅行、語学研修旅行、海外姉妹校交流
 - ・修学旅行の際に東京インドネシア和国学校と交流
 - ・オーストラリア科学教育研究会代表团による授業参観と特別授業の実施
 - ・日米教員交流ホームステイ受け入れ、姉妹都市からの生徒受け入れ
 - ・ACCUの韓国政府日本教職員招へいプログラムに参加
 - ・ESD日米教員交流プログラム本校視察
 - ・JICA研修員の学校訪問団（アジア地域6ヶ国、アフリカ地域10ヶ国）
 - ・ドイツの学校及び同国ユネスコ委員会に交流を打診したが、返事がなかった。



(3) 国内の他のユネスコスクールとのどのような交流を予定していますか。

(複数回答可)

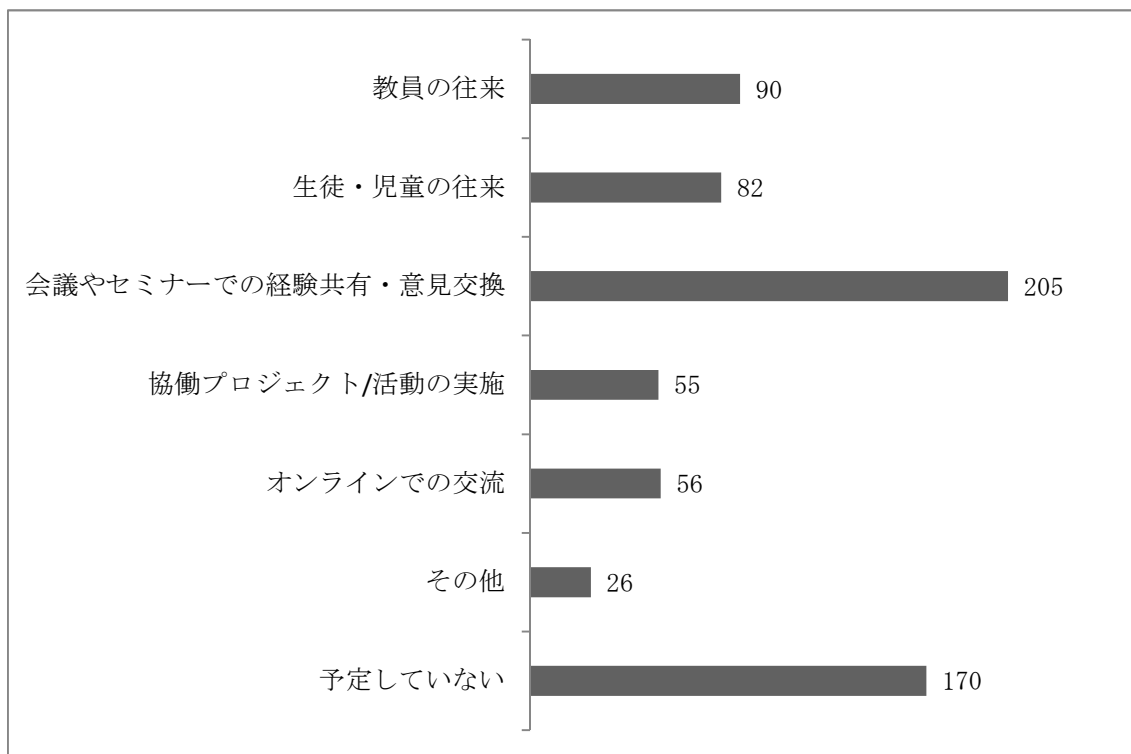
- 教員の往来
- 生徒・児童の往来
- 会議やセミナーでの経験共有・意見交換
- 協働プロジェクト/活動の実施
- オンライン（フォーラム、チャット、電子メール等）での交流
- 予定していない
- その他（自由記述）

[交流の内容]

- ・手紙、ホームページ、テレビ会議による交流活動
- ・テーマを設定しての研修会
- ・校内研究の成果の交流
- ・地域教材の研究

[交流を予定している地域、学校種別]

- ・市内・県内の幼稚園・保育所・小学校・中学校
- ・統合予定の小学校
- ・全国の私立小学校
- ・地域の伝統文化体験を指導計画等に位置付けている学校



(4) 海外のユネスコスクールとの交流を予定していますか。(複数回答可)

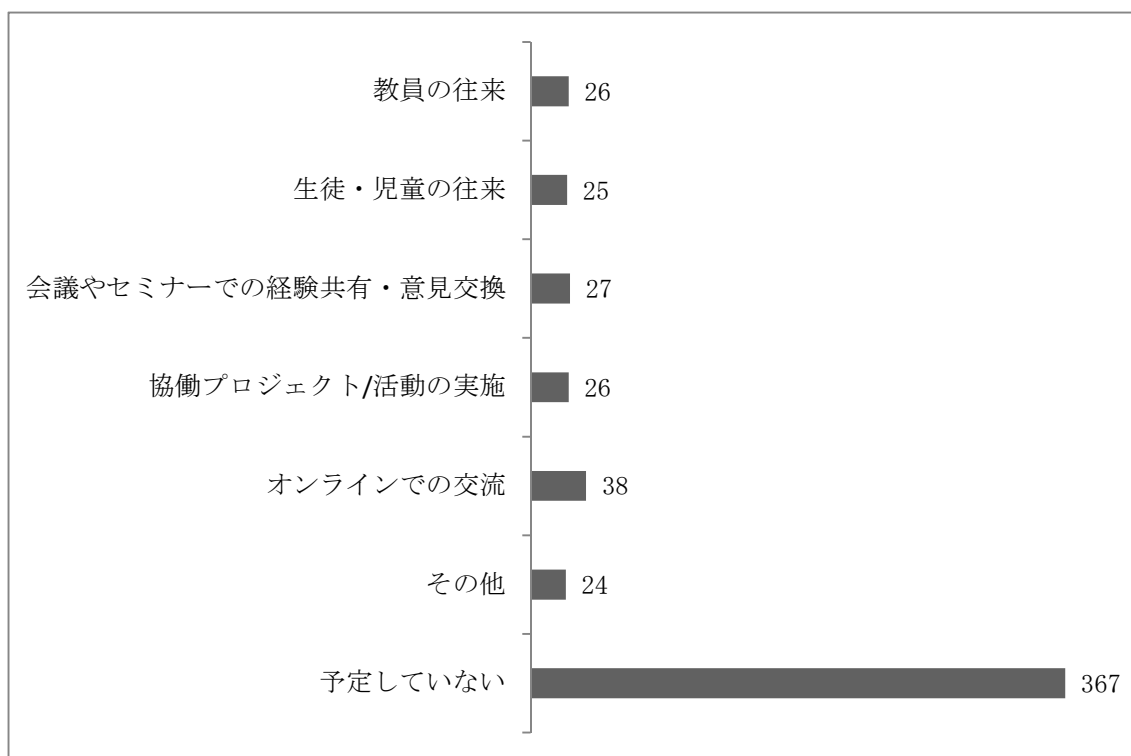
- 教員の往来
- 生徒・児童の往来
- 会議やセミナーでの経験共有・意見交換
- 協働プロジェクト／活動の実施
- オンライン（フォーラム、チャット、電子メール等）での交流
- 予定していない
- その他（自由記述）

〔交流の内容〕

- ・手紙、テレビ会議、ビデオレター、Skype による交流活動
- ・高等部修学旅行での交流
- ・海外出張や校外学習の際にユネスコスクールを訪問
- ・アートマイルプロジェクト、寺子屋プロジェクトへの参加
- ・リサイクル活動で換金・購入した学用品をフィリピンの学校に贈呈
- ・卒業生を介してのフランスとの交流を模索中
- ・ACCUが主催する交流事業での取り組みを検討中
- ・マレーシアの学校を探している。
- ・交流したいと考えているが、企画・計画に至っていない。

〔交流を予定している国、学校種別〕

- ・英語で交流できる国
- ・時差の少ない国の中学校
- ・同様のテーマを持つ中学校
- ・韓国の特別支援学校
- ・近隣教育大学及び自治体の支援を受けながら、タイの学校との交流を予定
- ・韓国巨済市菊山初等学校、サンマテオ市パークサイド小学校（アメリカ）、
ダニーデン市アンダーソンズベイスクール（ニュージーランド）
- ・アメリカ、カナダ、韓国、中国、台湾、ラオス、フィリピン、タイ、マレーシ
ア、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランド、ネパール、バングラ
デシュ、インド、ギリシャ、アラブ共和国、エジプト、イギリス、オランダ、
ドイツ、フランス、スイスの小中学校・高校



(5) 海外のユネスコスクールと交流する（始める）際に課題となることがありますか。
（自由記述）

〔言語〕

- ・児童・生徒の語学力
- ・英語が堪能な職員の不足
- ・英語圏以外の国との交流の難しさ

〔交流先の選定〕

- ・活動内容に共通性を持っている学校の選定が難しい。
- ・海外の学校とのコンタクトの方法、交流のきっかけがつかめない。
- ・交流先との調整（交流の目的、方法、期間、言語等）においてコーディネートしてもらえるとありがたい。
- ・ユネスコスクールに対してどのような支援があるのか現場に見えてこない。窓口や紹介の段取り、機能など、もっとアピールしてほしい。
- ・「ユネスコ寺子屋運動」や「スマイルアフリカプロジェクト」を推進していく中で、具体的な学校名が把握できない。
- ・全世界のユネスコスクールのデータベース、活動の特色等の情報があると良い。

〔その他〕

- ・時差の問題
- ・文化の相互理解
- ・成果物等の郵送費
- ・交流の内容とかかる時間の確保
- ・交流に対する教員の意識改革
- ・相手国の国内情勢、その他国際情勢
- ・総合的な学習の時間の指導計画の変更
- ・国内の幼稚園との交流だけで精一杯とを感じる。
- ・お互い行き来する際の交通費等、予算の面など不安を感じている。
- ・オンラインでの交流等の技術的な課題、インターネット環境が不十分。
- ・双方にとって有益な交流を継続的に実践していけるかどうか。
- ・交流活動を単発の活動に終わってしまわず、継続的に取り組む体制作りが必要。
- ・交流に費やす時間とそれに見合う教育的効果が得られるか。

2. 地域の社会教育機関、NPO 等との連携などを通じて、開かれたネットワークを構築しましたか。

□ した

〔連携した団体等〕

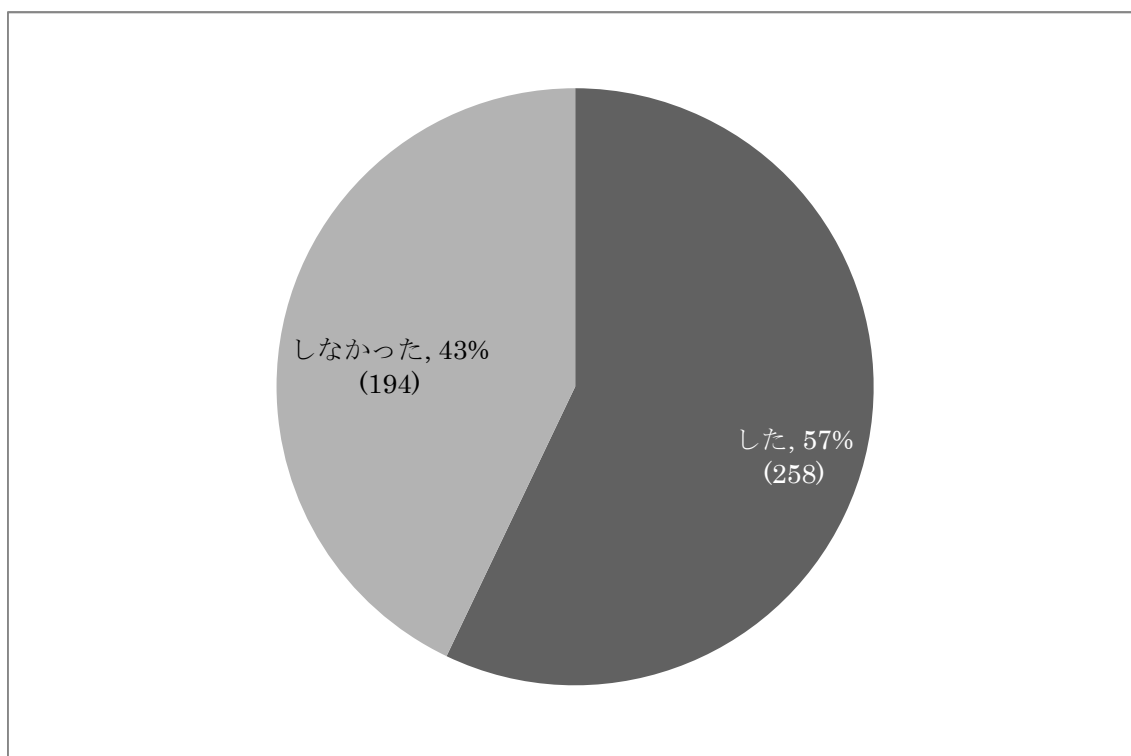
- ・ JICA、JEARN、環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）、県のユネスコ協会、地方自治体（環境政策課、教育委員会、保健福祉課等）、地域の図書館、公民館、科学館、PTA、消防署、社会福祉協議会、商工会議所、国際交流協会、農事組合法人、公益財団法人、NPO 法人、民間企業、介護施設、福祉施設、ボランティア団体、自然保護団体、近隣の大学、車イスバスケットボールチーム、フィルハーモニー楽団等

〔学習活動、その他実践等〕

- ・ 町の公民館や図書館・郷土資料館と連携し、各種交流や見学などを実施
- ・ 市役所（産業推進室）と連携してエゾシカ被害（生態系の維持）についての学習を実施
- ・ 公益財団法人の協力を得て、M I A 国際理解教育支援事業を実施
- ・ NPO 法人の協力の下、菜の花プロジェクト、ソーラーランタン作り
- ・ NPO 流域生態研究所に講師を依頼し、近隣の川の生態系や川の役目を学習
- ・ 東北地方に防波堤を作るべく、NPO 法人のどんぐりの木の植林活動に参加
- ・ 地球温暖化対策地域協議会の出前講座
- ・ 被災地なので、地域に支援に入っているボランティア団体の方々を招待する等、開かれた学校づくりに努めた
- ・ 繭細工講師、桑畑所有者等と気軽に情報交換できる体制の構築
- ・ 学芸員を招き、昆虫や植物の授業を実施
- ・ 文科省の支援機関である食育イキイキ隊を招き、生活リズムの講演を実施
- ・ 日本ユネスコ協会と製薬会社と連携し、サイエンススクールを実施
- ・ ACCU との連携を通してゲストティーチャーを招き、トルコの文化について学ぶ学習会を実施
- ・ インド青少年訪日団の受け入れ
- ・ 地域の方に授業や行事の講師として参加してもらえるよう、学区人材バンクを整備
- ・ 近隣の大学から ESD を核とした人材を派遣していただく予定
- ・ インド青少年訪日団の受け入れ

□ しなかった

- ・必要を感じない、NPO と連携する学習内容ではなかった。
- ・自校での実践が主なので連携しなかった。
- ・学校内のシステムが順調に動いているため新たなことはしていない。
- ・姉妹校との交流を中心に進めているため。
- ・余裕がない、時数的な制約があった。
- ・加盟して1年目なので、校内整備から着手している。
- ・本校学区内に適当な関連機関がないため。
- ・他機関や団体等の情報収集不足。
- ・これまで継続している大学、東京韓国学校等と連携して研究や実践活動に取り組む事が多かったため。
- ・今年度は研究奨励校として防災教育を中心に取り組んだため、ネットワークを構築することはしなかった。



3. 校内外における各種研修に参加しましたか。

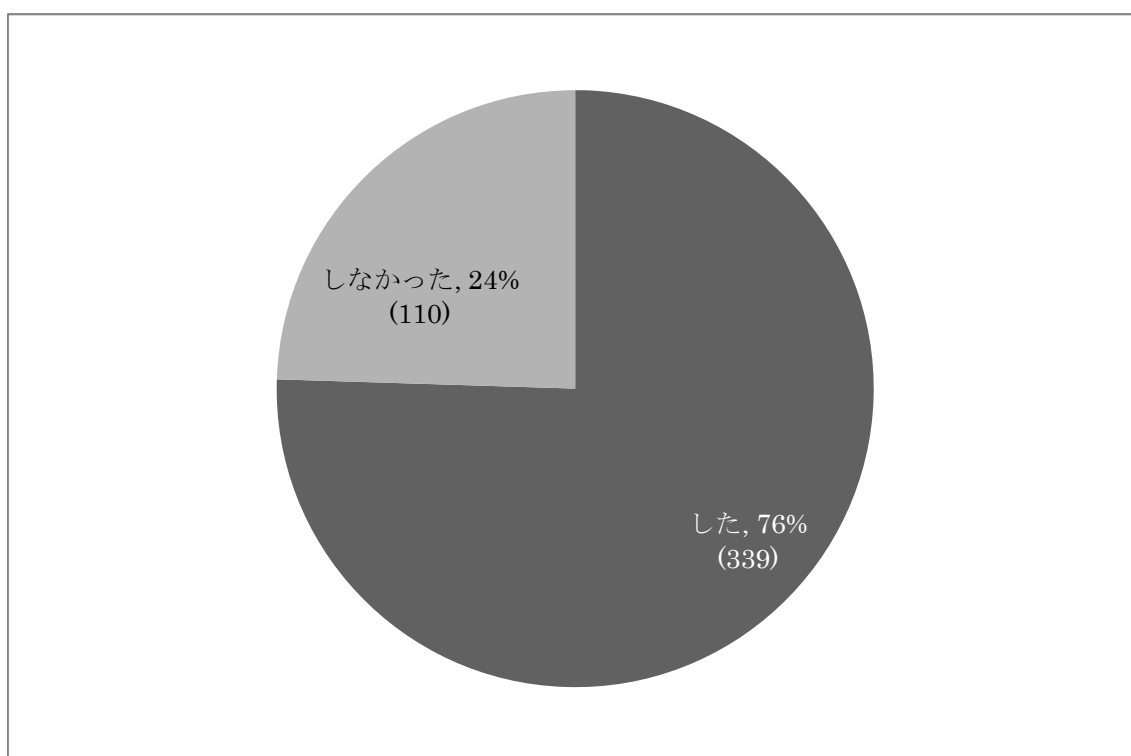
□ した

- ・アイヌ文化普及啓発セミナー
- ・赤い羽根募金打ち合わせ会
- ・外国人生徒教科指導研修会
- ・環境教育研究会全国大会
- ・環境教育研修会（校内研修）
- ・環境教育に関する研修（環境省主催）
- ・国際教育オープンフォーラム
- ・コミュニティースクール推進研修会
- ・市教育委員会教員研修会
- ・市教育委員会ユネスコスクール研修会
- ・実践交流会
- ・人権教育研修会
- ・世界遺産学習全国サミット
- ・多文化共生教育担当者研修会
- ・地域素材の教材化についての研修
- ・町内の合同研修会
- ・町内の幼稚園・小学校・中学校・高校で「ユネスコスクール発表会」を開催
- ・特別シンポジウム 2050年の大人づくり
- ・日本学校教育学会
- ・日本教材学会
- ・日本国際理解教育学会
- ・日本／ユネスコパートナーシップ事業「ESD・ユネスコスクール研修会」
- ・ユネスコスクール加盟校打ち合わせ会（教育委員会主催）
- ・ユネスコ協会主催のESD学習交流会
- ・ユネスコ協会総会
- ・ユネスコスクール研修会
- ・ユネスコスクール全国大会
- ・ユネスコ地区研修会
- ・ライスプロジェクト
- ・ASPUivNet の連絡会議
- ・ESD 教員研修会
- ・ESD 講座運営委員会
- ・ESD サマーキャンプ

- ・ ESD/RCE 円卓会議
- ・ NPO 法人との学習会

□ しなかった

- ・ 新たに始まった ICT 教育の研修に重点を置いたため。
- ・ 近隣で良い研修が見当たらなかったため。
- ・ 校内の諸行事と重なったため。
- ・ 小規模校のため参加する人的余裕がなかった。
- ・ 町指定の公開研究会・県教委主催の研修会が多く、時間的にも人員の面でも余裕がなかった。
- ・ ユネスコスクール関係の研修は土日に開催されることが多く、参加が難しい。
- ・ ユネスコスクールに加入して間もないため。
- ・ 旅費の問題



4. 学校経営方針等にユネスコスクールの活動に取り組むことを明確に示し、学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクールの活動に取り組みやすくしていますか。

□ した

[教育計画]

- ・教育計画に ESD 全体計画を明示。
- ・学校経営の基本計画の重点努力事項に明示。
- ・教育計画に環境教育等を位置付け、活動内容等を明記。
- ・教育計画に「ESD/ユネスコスクール」の項目を設け、当校のテーマ・ESD でめざすもの・ESD のプログラム・実践の成果と課題を記載。
- ・年間計画を作成し、さまざまな具体的活動を推進できるようにした。
- ・本校の実態等に応じて重点化した ESD の視点を組み入れた指導計画を作成、実践した。
- ・主担当者が活動内容・時期を決定するとともに、それを基に各学年で各教科等との関連を図った年間指導計画を作成。
- ・ESD の実践とユネスコスクールの活動を学校経営の柱の一つとしている。
- ・学校の研究主題を「自立と共生を目指した ESD の推進」とした。
- ・教育構想図に位置付けた。

[校務分掌]

- ・校務分掌の児童活動部の活動内容に明確に位置付けた。
- ・校務分掌等にユネスコスクールを設け、活動に取り組みやすくした。
- ・校内組織にユネスコスクール検討委員会を設置し特別委員会として位置付けた。

[ESD カレンダー]

- ・ユネスコに関する情報の提供や教育課程にユネスコ学習を盛り込んだ ESD カレンダーを作成。
- ・全学年の ESD カレンダーを作成し、教科等全体にわたり横断的・総合的に ESD に取り組んだ。
- ・「総合的な学習の時間」を中心に ESD カレンダーを作成。

[総合的な学習の時間等]

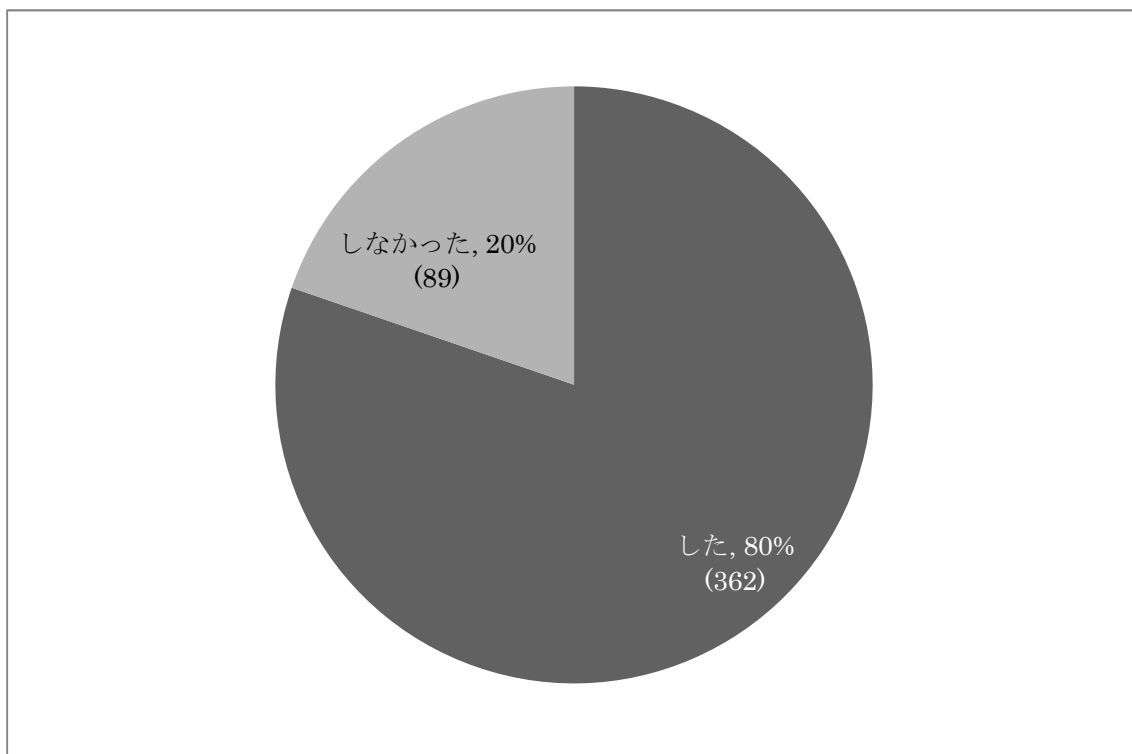
- ・各学年ごとに総合的な学習の時間の内容を再構築。
- ・生活科及び総合的な学習の時間の教育課程に位置付け、各学年及び全校で取り組む体制を整備。

[その他]

- ・ 文部科学省より研究開発指定を受け、持続可能な社会を創り上げる力を育む新教科「社会創造科」を設置。全職員が学習活動に関わっている。
- ・ 文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクールに指定され、全教職員で取り組んでいる。その開発計画書に「SSH事業の中にユネスコスクールとしての活動を盛り込んでESDを推進する」と明示。
- ・ 行事や生活の場面でユネスコ活動を意識し、職員会議等話し合いの場を持った。
- ・ ホームページに掲載し、毎年活動している。
- ・ ESDアシストプロジェクトに申請し、環境教育の一環として中庭整備（ビオトープ作り）に取り組んだ。
- ・ 教科の体験活動の中に組み込む。
- ・ 校内研究や総合的な学習の時間、文化祭などに取り入れた。
- ・ ESDに関わる教材を積極的に取り入れて日々の学習を進めた。
- ・ ユネスコの助成金を活用し、ESDの研究を全職員で行った。
- ・ ユネスコスクール認定式を行い、全教職員・全校児童で活動を振り返り、今後の活動へ繋げた。
- ・ 組織的ではないが、継続的な奉仕活動をユネスコスクールの活動として位置付けている。
- ・ 生徒会の専門委員会活動においてユネスコスクールの取組を位置付けた。
- ・ 校内エコ教育推進委員会の開催。
- ・ クラブ活動として「ユネスコ研究会」を発足。
- ・ 外国人生徒教育の推進（多文化共生のまちづくりにつながる外国人児童生徒教育の推進）。
- ・ 国際交流担当を増員し、職員全体に活動を示すようにした。
- ・ コラボスクールを中心として、伝統的な地域学習を位置付けている。
- ・ 地域学習プロジェクトチームを立ち上げる予定。
- ・ 教職員のチャレンジ目標として「地域の活動や行事に積極的に参加する」という項目があり、教職員自らユネスコスクールとしての活動に取り組むことを銘記している。
- ・ 「外国語部」を改編し「ユネスコクラブ」として新たに発足。
- ・ 保護者への通信物による呼びかけ、地域の方々への声掛けを実施。
- ・ 活動を随時写真ポスターや学校新聞にして地域や保護者に発信。
- ・ 参観日の全体会で保護者にユネスコスクールの加盟、取り組む内容について報告。

□ しなかった

- ・通常の学習活動や総合的な学習の時間でユネスコスクールの理念に沿った活動が実践できているため。
- ・経営方針や経営の重点として具体的に示さなくとも、持続発展教育として環境教育等でエコ活動を展開しているため。
- ・本校の校訓や教育方針がユネスコスクールの示す指針に合致するため、改めて明示する必要がないと考えている。
- ・年度途中でユネスコスクールに加盟したため。
- ・統合1年目のため、前年度の取り組みの引き継ぎが十分ではなかった。
- ・ESDの校務分掌を位置付けていなかったため。
- ・防災教育等他の教育活動のカリキュラム整備に追われ、十分な話し合いの時間が持てずにいたので、組織を生かして取り組むまでには至っていない。
- ・コミュニティスクールの取組を優先しており、ユネスコスクール担当の明確な位置付けが不十分であった。
- ・喫緊の学校課題があり、ユネスコスクール活動を学校経営方針に入れるだけの余裕が見出せなかった。
- ・学校経営方針とユネスコスクールの活動の関係を明確にできなかったため。
- ・職員に十分にその理念が浸透していないため。
- ・震災対応のため、まだ戻せる状態に至っていない。
- ・年間計画（ESDカレンダー）などの作成に時間を要するため。



5. ユネスコスクールの活動を自らの学校評価の項目に盛り込み、活動の質の向上に努力しましたか。

□ した

〔学校評価〕

- ・年2回の「学校運営評価」の中に「新教育課程の推進～ESDの推進」という項目を設定し、活動の反省と方向性について話し合った。
- ・学校評価の項目に子どもたちの環境教育等に関する意識等を設定し、数値目標を定めて評価している。
- ・ユネスコスクール活動に生徒参加を促すことができたか、また、教員のユネスコスクール活動への理解を深められたか等を評価項目に入れた。
- ・ESDの横断的な評価は、環境教育や総合的な学習の評価項目に盛り込み、活動の質の向上に役立てた。
- ・学校の自己評価項目に盛り込み、学校評議員・PTA役員に成果等を報告した。
- ・地域に開かれた学校づくりの項目の中で、具体的評価項目とした。
- ・学校評価の項目に国際理解教育の項目がある。
- ・食育に関する項目を作り、評価した。
- ・重点努力事項の一つとして評価した。
- ・学年部・部活動で生徒各自が活動に主体的かつ積極的に計画を立てて行動しているか教務部主導で評価し、活動の質の向上に努めている。

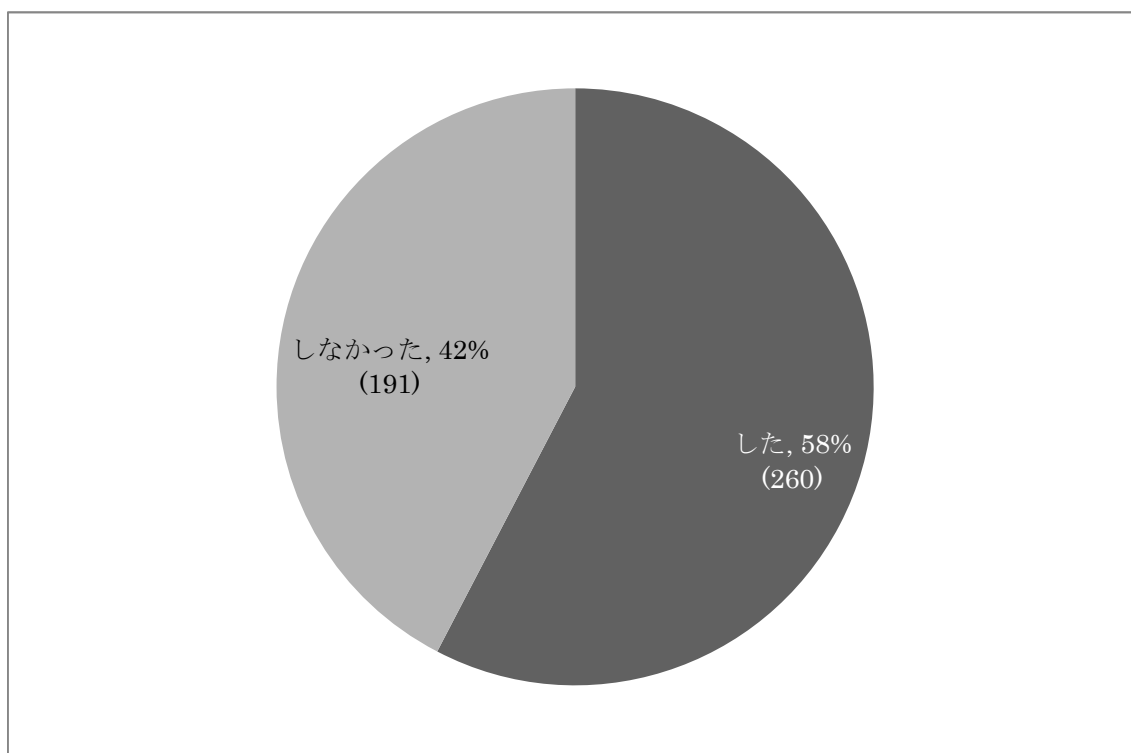
〔学校評価以外の取組〕

- ・定期的に教員研修を行い、ESDに関わる学習については一年間の成果を研究紀要等にまとめた。
- ・1年間のユネスコスクールの活動の成果と課題について全職員で話し合い、その結果を市教委に報告している。
- ・教員と児童の両方からアンケートを取り、結果を踏まえて次年度の教育課程の修正を行っている。
- ・「ユネスコスクールの活動」という項目ではないが、アイヌ文化学習の取組について毎年反省をし、改善を行っている。
- ・教職員だけでなく、保護者・地域にもアンケートを実施してその結果を分析。

□ しなかった

- ・道徳的な内容やキャリア教育等に含めているため。
- ・学校評価は学校教育目標についての評価に限っているから。
- ・学校評価を行わないため。(シュタイナー学校)

- ・ユネスコスクールの活動としてではなく、その基礎となる「総合的な学習の時間」と「国際理解活動・外国語活動」として評価。
- ・学校評価としては実施していないが、随時、校長により活動の検証を行った。
- ・ESD カレンダー完成後、評価を進めていく予定。
- ・経年変化をみるため、ここ数年は学校評価の評価項目は変えていない。
- ・市教育委員会主導の学校評価を利用したため。
- ・教育課程に位置付けていないため。
- ・ユネスコスクールに加盟承認されたばかりで未整備の状態であるため。
- ・評価項目を精選し、数を絞ったため入れられなかった。
- ・学校評価の項目に入れることを失念していた。
- ・明確な目標や具体的な活動計画が十分に共有できていなかったため、学校評価の項目には入れていなかった。
- ・教員間でユネスコスクールへの理解が十分に図られているとは言い難いため。
- ・学校評価の項目に盛り込むほど実践が深まっていないため。
- ・ユネスコスクールの活動は様々な教育活動の一部であると考えている。
- ・活動の質の向上をめざす手段は学校評価に盛り込むことではないと考えている。
- ・今年度は具体的な活動をしていない学年もあり、学校評価には盛り込まなかったが、対象学年の保護者からは良い評価を得た。



6. 今年度の活動を実施するにあたり、ユネスコスクール大学間支援ネットワーク (ASPUnivNet) 加盟大学をはじめとする高等教育機関の支援や協力を受けましたか。

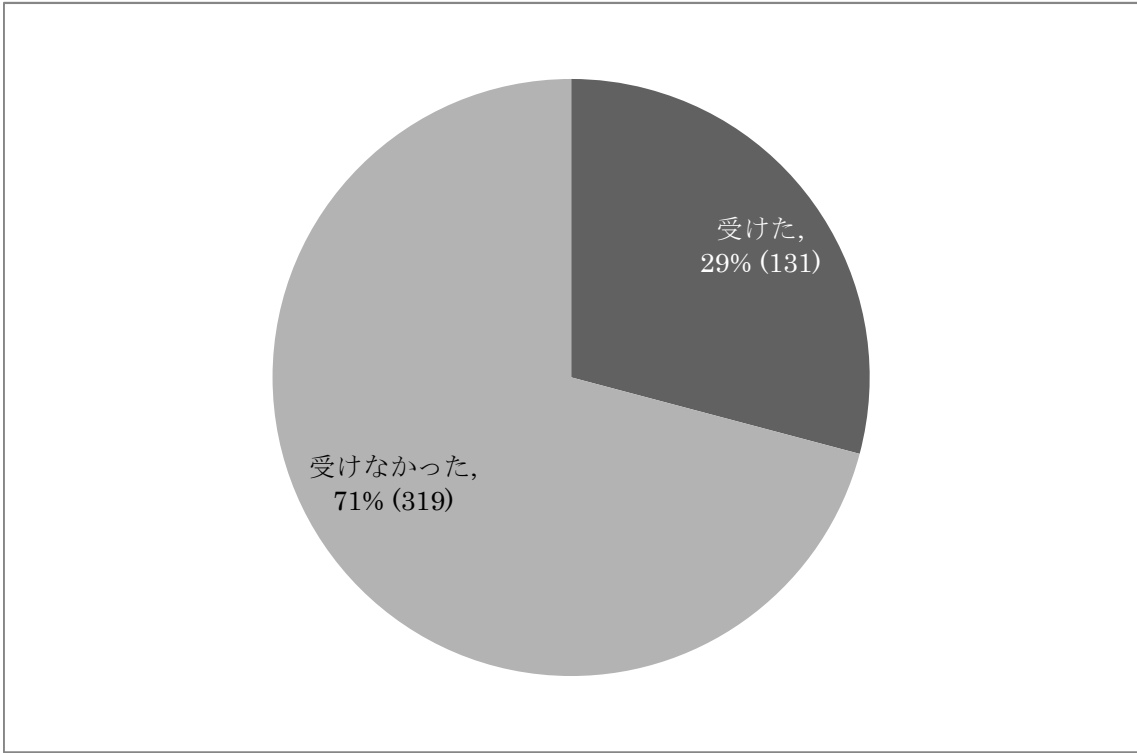
□ 受けた

- ・加入申請にあたっての御指導、英文チェック、カレンダー作成のアドバイスをいただいた。
- ・近隣大学の先生方から研修会等において講話・指導助言等を受けた。
- ・近隣大学の教授に中間発表会及び発表会当日の学習に対して助言をいただいた。また、本年度の取組の総括についてもご意見をいただいた。
- ・宮城教育大学より E S D 基本理念等について講義を受けた。また、韓国の交流校を紹介していただいた。
- ・ウェブ会議の支援をしていただいた。
- ・高等教育機関と教員の話し合いをもつことができた。
- ・ユネスコ協会青年部に所属する大学生に御協力いただき、ベトナム・カンボジアの子どもたちに文房具を寄付した。
- ・JICA の取組の一環でモロッコ教育省の方々の研修を受け入れた。大学の先生にコーディネーターとして関わっていただいた。
- ・キャリア教育の視点から近隣大学との交流を進めている。
- ・大学のユネスコクラブによるフィールドワーク活動のサポート。
- ・JICA 研修生に来校していただいて児童達と交流をした。
- ・近隣大学の准教授に本校の外国語活動の様子を参観していただき、アドバイスをいただいた。
- ・ユネスコスクール地域交流会において、全体会・分科会で実践発表を行い、指導助言をいただいた。
- ・沖縄の海洋調査活動や鳥取の森林調査活動で、現地大学の施設利用や実習指導の協力を得た。
- ・書籍「ユネスコスクールによる E S D の実践」を編集する際に、ASPNet に加盟している大学の教授数名から原稿を寄せてもらった。
- ・県内のユネスコスクール支援大学からゲストティーチャーを迎え、環境に関する講演会を行った。
- ・文科省ユネスコパートナーシップ事業「高校生国際フォーラム準備セミナー 2012」に参加する等の諸活動の際に大学の支援を受けている。
- ・ディベート事前学習会において大学に講師を依頼した。
- ・大学の支援により国際理解オープンフォーラムでの発表の機会をいただいた。また、四国内のユネスコスクールとの交流の機会を与えていただいた。
- ・ASPUnivNet 加盟大学として、東京都・神奈川県・静岡県を中心に小中高校に

対してユネスコスクール加盟支援（加盟申請書のチェック・修正、ユネスコスクール講習会、ESD 研修会の実施等）を行った。

□ 受けなかった

- ・地域の人材活用や体験学習が充実しているため。
- ・市役所・ボランティア団体・地域の方々からの支援が充実していたため。
- ・本校の活動において、現時点では特に支援を受ける必要性がなかった。
- ・附属大学・他の大学からの教育的な支援や協力があつたため。
- ・地域のボランティアや東北電力といった企業に協力を依頼したから。
- ・基本的に市の教育委員会の支援・協力を仰いでいる。
- ・附属大学とのネットワークを優先しているため。
- ・近隣大学に継続的にエネルギーに関する特別授業を実施していただいている。
- ・大学などの高等教育機関より、区役所・NPO法人など地域の人材、関係諸機関を活用した方が授業のねらいに沿った活動を行うことができると考えたから。
- ・直接は支援を受けていないが、講演・資料等を介して活動の参考にはしている。
- ・あることを知らなかった。
- ・時間の確保が難しかった。
- ・計画に盛り込むことができなかつたため。
- ・支援・協力の内容をよく知らなかった。
- ・支援を受ける具体的な手続き等が分からない。
- ・地域の大学に活動拠点がない。
- ・拠点校の大学から連絡がなかった。
- ・具体的な活用方法が分からなかつたため。
- ・さまざまな研修・会議等で十分に検討し企画する時間が取れなかつた。
- ・今年度は支援を受けなかつたが、今後は大学の先生の出前授業等を受ける方向で検討している。
- ・今年度課名したばかりで具体的な活動を行うことができなかつた。
- ・他機関や団体等の情報収集不足。
- ・支援の受け方を教えてほしい。総合的な学習の時間や生活科でESDに沿った学びが展開できるよう支援していただけるとありがたい。
- ・支援についてACCUにご相談したが、あまり有効な方策や方法をご提案いただけなかつた。
- ・日程が合わなかつたため。
- ・離島の環境にあるため、なかなか外部との連携が難しかった。
- ・九州地区の支援大学が変わつたため、地理的な利便性が下がつた。
- ・ユネスコスクールにおける特別支援学校の登録が少ないため。



7. ESD を通じて育てたい資質や能力を明確にし、自分で、あるいは協働して、問題を見出し解決を図っていく学習の過程を重視した教育課程を編成するよう努めましたか。

□ した

〔教育課程等〕

- ・ 関連機関や地域人材との打ち合わせをした上で指導計画を全職員で協議し、教育課程を編成した。
- ・ ESD で育てたい力を設定して取り組んだ。
- ・ 校内研究と関連させ、指導案に資質・能力・態度の項目を設定した。
- ・ 年度当初・年度途中で資質や能力を教員に示し、授業での実践を促した。年度末には各教科での取り組みをまとめた冊子を作成。
- ・ 「見通す」「調べる」「高める」という学習過程を設定し、問題解決を図っていく実践を行った。
- ・ 学校のカリキュラムに学校設定教科「自然と科学（高校1年生対象）」「地球市民学（2年生）」を設定し、全員必修で実施した。
- ・ 総合学習の中に世界遺産の学習を入れた。
- ・ 来年度より本校で新設される「海外大学進学コース」について、全校の職員が一丸となってコース目標や教育課程編成に携わってきた。その際に、「自ら課題を発見し、解決を図っていく力」を身につけることを目標とするグローバルスタディーという科目を設定した。
- ・ 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の年間計画に組み入れ、実施した。
- ・ 平成25年度のカリキュラム刷新に併せて異文化理解・韓国語・中国語の授業を取り入れる。
- ・ 大学の教育科目にESD関連科目を集めた現代的課題科目群を設定している。
- ・ このような学習過程はシュタイナー教育のカリキュラムに入っているため、毎週研修を行うことで務めてきたと考えている。

〔学習活動等〕

- ・ 「育てたい資質や能力」をおさえることはできているが、幼稚園では問題解決のための学習をさせることは考えず、遊びを通じての豊かな体験を重視している。
- ・ 体験的活動などを通し、問題解決能力を図る教育活動を推進した。
- ・ 児童が自校のホームページのブログにコメントし、自分で写した写真をアップすることで、仲間と協働で話合う活動を進めている。
- ・ 今年度は「批判的に考える力」や「多面的・総合的に考える力」といった「考える力」及び「表現する力」の育成を重視した。
- ・ 課題解決型の授業を重視するとともに、各教科・領域において児童同士の意見

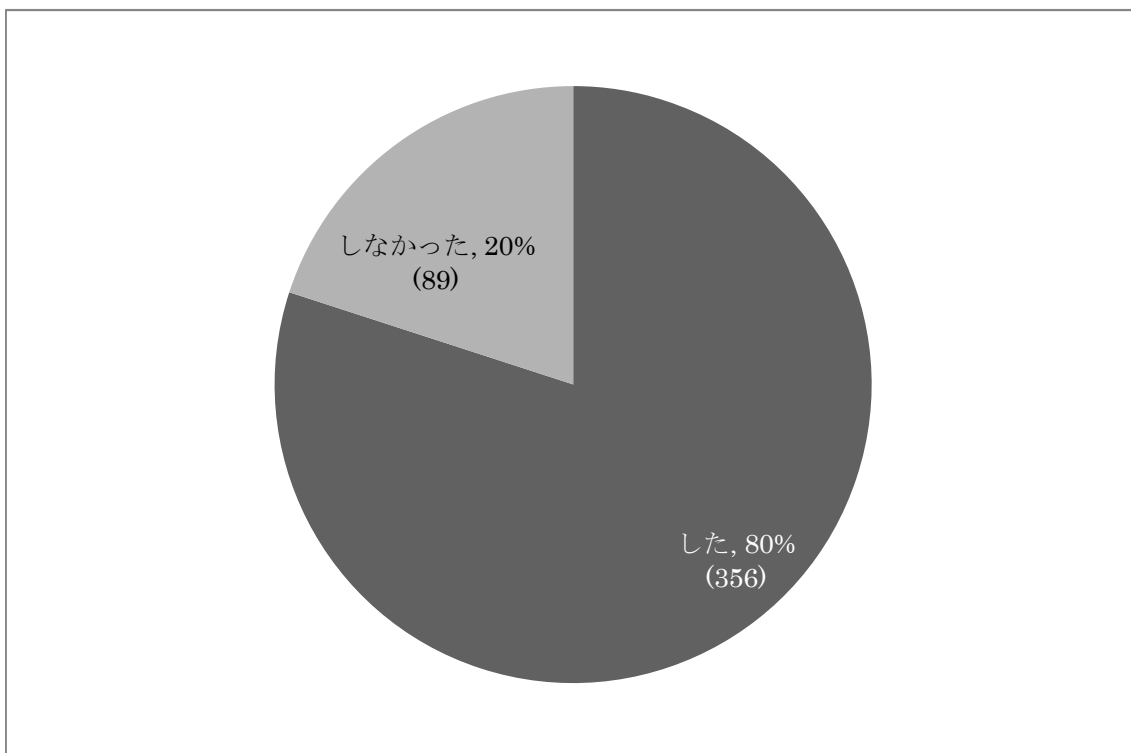
交流を大切にし、他学習過程を意識して取り入れた。

- ・生徒が興味をもっている分野に関して、ペアワークなどを取り入れながら調査研究活動を進めた。見学やインタビュー、実践、インターネットなどを活用し、生徒が主体的に取り組めるよう支援した。
- ・常に地域の各種団体及び地域人材との協働教育に努め、活動してきた。
- ・一方的に教師が教え込む一斉授業のスタイルをやめ、小グループ等を活用して子どもたちが互いに学び合う授業づくりを始めた。
- ・全ての授業において「協同学習」を取り入れることで、生徒の主体性・協同性、他者を尊重する民主的な態度、仲間と共に問題解決に向かう技能、コミュニケーション能力を育成した。
- ・英語国際（ネイティブ・スピーカーによる授業）の3年間を通じた指導を工夫。
- ・世界遺産登録の候補に挙げられている地元の教材を生かし、修学旅行を主にした世界遺産学習を教科、総合学習に組み込んだ。
- ・外国語コースの特別授業でフェアトレードに関するワークショップを行い、生徒参加型授業を実践した。
- ・2年生全員に「課題研究」を設定し、自ら課題を設定し、解決を図る学習活動を実践的に行っている。

□ しなかった

- ・課題解決的な学習の過程は重視して指導にあたっているが、ESDにかかわる内容について十分な話し合いが持っていないため、教育課程を編成するまでには至っていない。
- ・新学習指導要領の実施に向けての見直しを優先して行った。
- ・指導要領とカリキュラムの改訂等に対する取り組みで手一杯だった。
- ・学校独自の研究テーマが別にあるので、それに沿った教育課程を編成している。
- ・総合的な学習の計画に準じていると考えるため。
- ・ESDとは関係なく取り組んでいる。
- ・ESDについて校内研修会などで共通理解する機会を設けていなかったため、全職員が重視して取り組んでいたとは言えない。
- ・教育課程全体を通してESD教育の推進を行うまでには至っていないが、社会科や音楽科、および家庭科等で、ESD教育を踏まえた単元を計画・実践した。
- ・ESDに関連するような環境・エネルギー・国際理解等の学習は教科の授業で扱ってはいるものの、問題解決学習としてカリキュラムを組むほどのまとまった時間が取り難いため。
- ・受験指導をはじめとする日々の指導に追われ、なかなかESDを意識できていないというのが現状。

- 個人の担当する科目では ESD を実践しているが、教育課程までには反映されていない。
- ESD の実践には教員の発想の転換と資質の向上が必須であるが、校内の理解が到底得られない。明示した場合を想定すると更に強硬な反発が予想される。生徒に対する ESD 教育を通して徐々に浸透を図ってゆく方法を取らない限り、活動を継続できなくなる虞れがあるため。



8. 総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画を立てるなど、指導内容を適切に定め、さらに、指導方法の工夫改善に努めましたか。

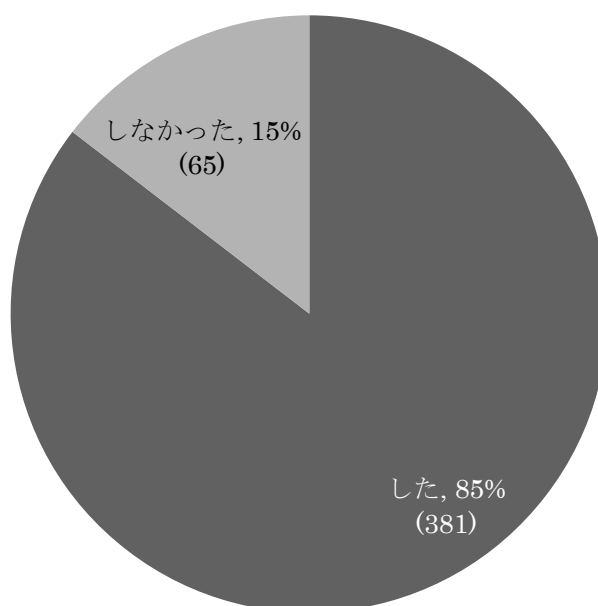
□ した

- ・体験活動を中心に据え、各教科等と関連を図った教科融合型の環境教育を展開した。
- ・年度途中でより深化をねらった計画に変更した。
- ・総合的な学習の時間を中心として、学年の系統性をもたせたテーマを設定した。また、指導計画に関連する教科とその単元名を記載し、他教科との関連を意識しながら実施した。
- ・総合的な学習と国語、社会、理科、家庭科との横断的な指導を行った。
- ・総合的な学習の時間及び学校行事等を中心とした横断的な学習を行い、地域を愛し、地域を誇りに思い、地域の未来を見つめることができる力を高めることができるように努めた。
- ・総合的な学習の時間では、社会科・理科等の教科の学習とリンクさせながら、地域の自然・環境・伝統文化等からテーマを設定し、指導計画を立てて取り組むことができた。
- ・総合的な学習の時間を学年縦割りの福祉活動として実践し、チェルノブイリ原発事故や東日本大震災被害者への支援を修道会と協力して行った。
- ・総合的な学習の時間を「ESD」とし、フェアトレードをはじめとする講演や自主課題研究に取り組みさせるなど、自ら学び考える場面を設定している。
- ・ESD カレンダーの全学年での作成。
- ・異文化間教育の推進を研究の柱とし、各教科横断的に異文化間理解を推進する単元の開発、授業実践を行った。
- ・全学年の発達段階に応じた内容を複数の教科に位置付け、計画的に指導している。
- ・指導の内容をより児童のレベルに下ろし、自分たちで問題解決を図れるように工夫するとともに児童の興味をひく実験を考えた。
 - ・どの学年においても各教科・領域、学校行事を組み合わせ、目標をはっきりさせ、より有効な指導法について考えた。
- ・学校独自のキャラクター商品を開発し、その品物を売った収益金で寄付を行うことにした。
- ・福祉教育を中心とした指導内容を定め、体験を重視した指導方法の工夫改善に努めた。
- ・テーマ（環境）を軸とし、低学年から高学年への系統的な学習内容となるよう計画した。

- ・被災地復興支援活動を通し、身近な問題から世界平和を考えた。
- ・防災教育に取り組み、理科・社会・保体・ボランティア活動等と関連付けた内容となるよう指導法を改善した。
- ・全体計画を作成し、指導内容を把握できるようにした。
- ・企業や上級学校・施設等の訪問や、就業体験・社会人講話などを通して指導方法の工夫改善に努めた。
- ・近隣の中学校に対し、総合的な学習の時間を中心とした ESD の教科横断的な指導計画のつくり方や実践例について講習およびワークショップを行った。

□ しなかった

- ・教科・領域をどのように横断的につなぐのか、その視点が明確でなかったため実践することができなかった。
- ・年度当初には今年度の年間指導計画が完成しており、それを編成する時間がなかった。
- ・加盟直後のため、十分な時間がなかった。
- ・総合的な学習を中心とした指導計画を立て、教科横断的な指導計画の見直しについては来年度の課題とした。
- ・総合学習の時間が少なすぎるため。
- ・ESD カレンダーを作り教科横断的な指導計画は立案したが、それを活用して指導内容の改善を促すような研修会は持てなかった。
- ・学校規模の縮小により学校の教育課程全体を見直している最中のため。
- ・本校の総合的な学習の時間はキャリア教育を中心とした指導計画となっているため、ユネスコスクールの活動を取り入れることが困難であった。



9. ESD の推進拠点として、研究・実践に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、ESD の理念の普及に努めましたか。

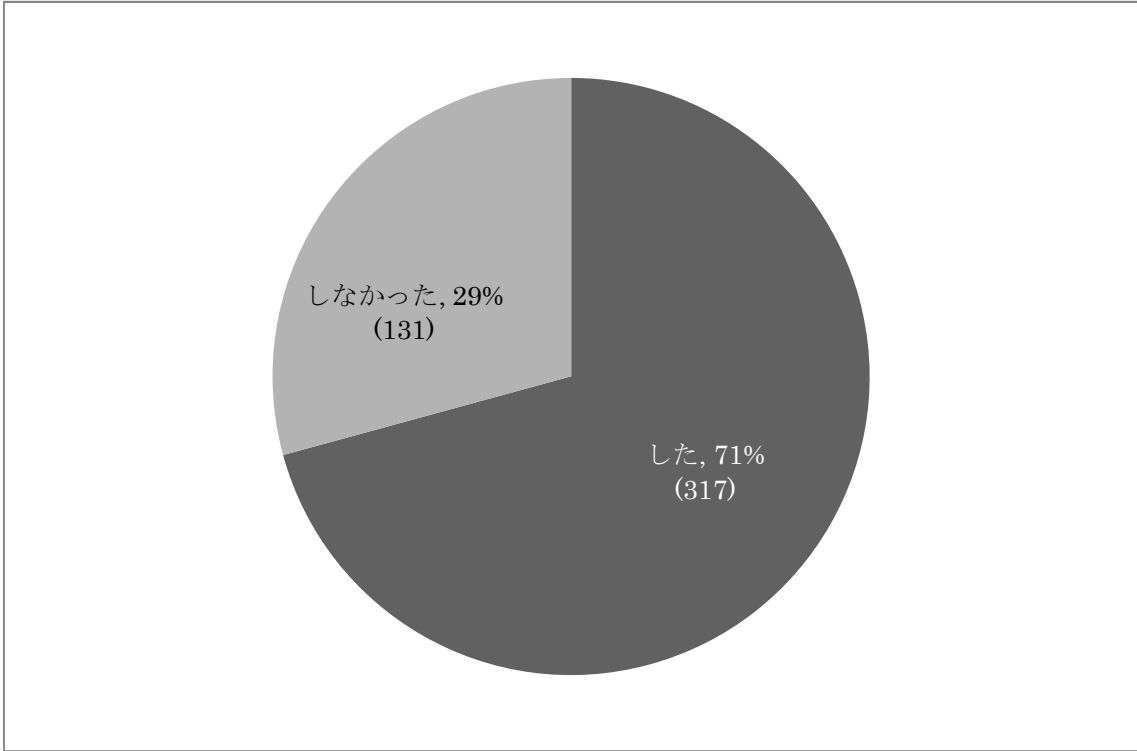
□ した

- ・学校のホームページなどでの公開を通じて啓蒙。
- ・研究協議会にて公開保育と研究の成果を報告。
- ・事例発表を行った。
- ・子ども環境サミットを開催した。
- ・ユネスコスクール発表会を実施した。
- ・市の教育委員会のホームページに活動を掲載。
- ・報道機関を通じて活動内容の紹介をした。
- ・地域の公民館や市のホール・福祉施設での発表を通して積極的に発信した。
- ・ユネスコスクールではない学校にも ESD の成果を発信した。
- ・「ESD 大賞」で審査委員別賞を受賞。
- ・全国ユネスコスクール大会で本校の取組を紹介し、END を推進してきたの成果や課題を発信することができた。
- ・生徒たちが取り組んだ調査研究活動の校内発表会において、市のユネスコ協会の方をお招きし、講評をいただいた。また、保護者や地域の方々にも活動の成果を発表した。
- ・近隣学校に研究授業の実施を公開し、授業について協議を行った。
- ・大会や研修会・交流会等で、実践を通して明らかになった ESD の魅力を一貫して伝えてきた。特に、児童の変容を捉えた発表や意見は多くの支持を得た。また、今年に入って作成した「学校 ESD 指標」は、行政での研修資料として使用される等、ESD チャレンジをする学校の方向を確認するよりどころになりつつある。
- ・市の動画コンテストを通じて故郷の良さを発信する活動を行った。
- ・町民環境フォーラムにおいて、児童がエコライフ事例発表を行った。
- ・ユネスコスクール研修会にて活動内容や成果や課題を発表し、ユネスコスクールへの加入を促すことができた。
- ・ユネスコスクールプレートの除幕式を行い、ユネスコスクールの役割やそれに結びつく学習や活動について、全校児童に分かりやすく説明した。また、本校の HP を通じて、学習の様子を広く発信した。
- ・「ESD 実践ガイド」を昨年に引き続き作成し、市内に向けて発信した。
- ・市の国際教育フォーラムで実践が紹介された。
- ・ユネスコライスプロジェクトアジアワークショップの視察受入と実践発表。
- ・県内岡山大学の学園祭で、ESD ブースに本校実践報告を出展した。

- ・ユネスコスクール地域づくりフォーラムで実践発表を行った。
- ・ユネスコスクール全国大会で分科会実践発表。
- ・市のユネスコスクール推進事業説明会で実践発表。
- ・生徒会が中心となってマスコットキャラクターを作成したり、「ユネスコスクール新聞」などを発行し、ユネスコスクールとしての活動を校内外にアピールした。
- ・全国小中学校環境教育研究大会、情報コミュニケーション学会全国大会、京都・環境教育ミーティングで実践発表を行い、ESD の理念の普及に努めた。
- ・ボランティア活動の内容やオーストラリアや韓国の学校との交流活動を文化祭で展示発表した。
- ・ESD の普及も含めた内容について本校生徒（高校）が地域の小学校へ出前授業を行った。
- ・本校の実践を冊子にまとめ、関係機関へ配布した。

□ しなかった

- ・改めて ESD の理念を前面に出して発信はしなかった。
- ・今年加入したばかりで、まだ研究実践の積み上げが少ないため。
- ・計画・準備の時間を確保できず、積極的な発信までには至らなかった。
- ・カリキュラムの整備や体験活動の計画及び実施までで手一杯のため、今年度は発信するまでに至っていない。
- ・年度途中でユネスコスクールに加盟したため、準備が間に合わなかった。
- ・成果の発表は積極的に行っているが、理念普及までは至っていない。
- ・未だ成果が十分ではないと感じているため。来年度は積極的に取り組んでいきたい。
- ・校内に ESD の理念を浸透させることが必要な段階のため、校内で学習の成果を発信するに留まっている。
- ・時間的な余裕がなかった。
- ・推進拠点としての認識が弱かった。
- ・本校児童が学びの中で ESD の理念を理解していくことはユネスコスクールとしての使命とは感じるが、推進拠点として ESD の理念の普及が必要という認識はない。



影響・効果

10. ユネスコスクールに加盟した結果、学校等にどのような変化が見られましたか。

(複数回答可)

- 学校名
- 学校のグラウンド、建物、環境等の物質的な変化
- 教育方法
- 民主的な学校運営
- 地域での積極的な役割
- 財政的、人的、物質的な資源の増加
- 学校の評判の向上
- 政府やその他のステークホルダーとの連携向上
- 他の学校との交流
- 外国語使用
- 学校全体のプロジェクトや活動の活発化
- 変化なし
- その他（自由記述）

〔児童・生徒の変化〕

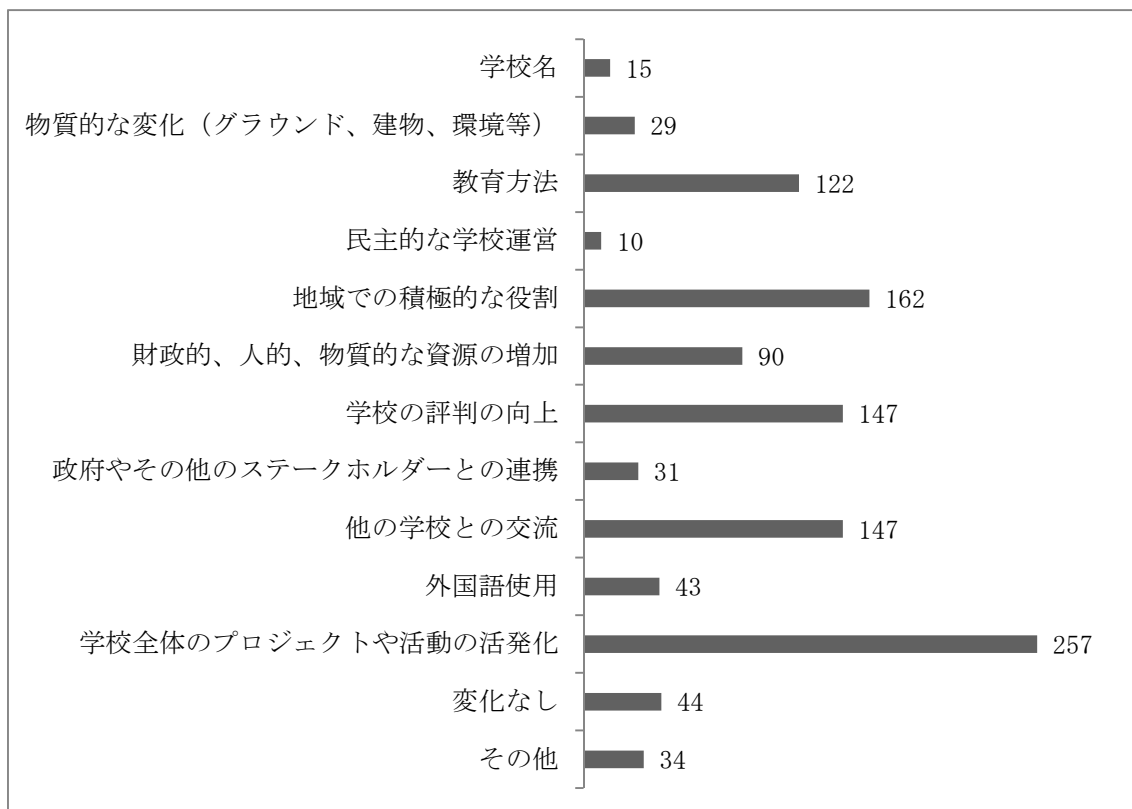
- ・外国の人々とのコミュニケーション能力の向上
- ・ペットボトルキャップの回収に活動に参加することでユネスコの活動に興味を持つ生徒が増えた。
- ・ESD活動に参加した生徒の内には大きな感動と共に価値観の変更を伴う学びをした者も少なくないが、学校全体に変化の兆しが見えるには時間がかかるものと思われる。教員の意識変革は最後になる見込み。

〔校内における変化〕

- ・数年来続けてきた異年齢集団における取組を ESD の視点から検証し、捉え直すことができた。
- ・総合的な学習の時間での取組み内容とその授業の進め方が ESD を意識したものになってきている。
- ・持続発展教育の意義や必要性についての教職員の理解。
- ・ESD の視点を持って教育活動を行うことは、生徒に身につけさせたい資質や能力が明確にすることにつながり、学習のねらいがはっきりした学習過程編成が可能になる。
- ・地域の素材を教材として何をすべきか、何ができるかを検討するきっかけができた。

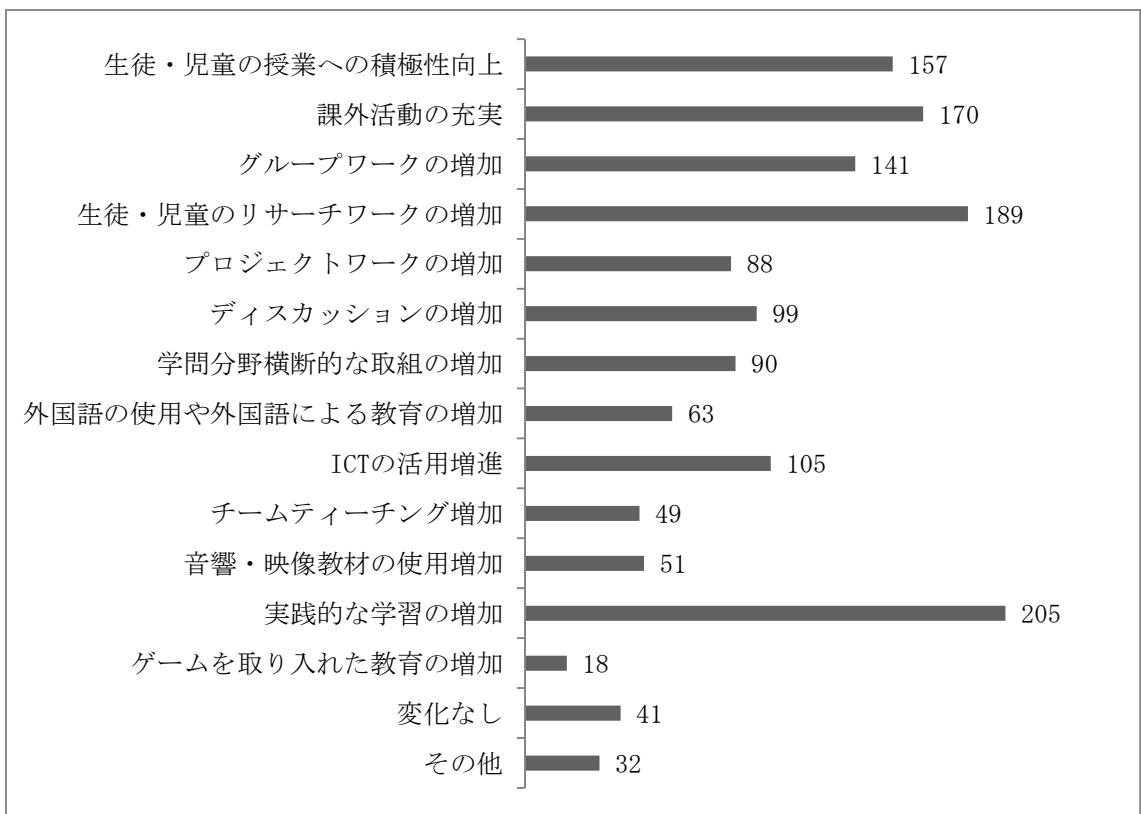
〔その他〕

- ・公開研究会に他府県からの参加者が増えた。
- ・人的資源の増加。
- ・市長からの評価や市教委の支援。
- ・地域住民や保護者からの地域貢献活動の賞賛。



1 1. ユネスコスクールに加盟した結果、教授方法にどのような変化が見られましたか。(複数回答可)

- 生徒・児童の授業への積極性向上
- 課外活動の充実
- グループワークの増加
- 生徒・児童のリサーチワークの増加（調査、分析、批判的思考、問題解決能力）
- プロジェクトワークの増加
- ディスカッションの増加
- 学問分野横断的な取組の増加
- 外国語の使用や外国語による教育の増加
- ICT の活用増進
- チームティーチング増加
- 音響・映像教材の使用増加
- 実践的な学習の増加
- ゲームを取り入れた教育の増加
- 変化なし
- その他（自由記述）
 - ・中学校のホームページに英語版が作られた。
 - ・体験と課題解決の過程を意識する教員が増えた。
 - ・表現活動の充実。
 - ・校外活動の活性化。
 - ・体験的な学習の重視、環境をテーマに地域に働きかける活動の重視。
 - ・課外活動の充実や生徒・児童のリサーチワークは増加している。
 - ・ICT の活用、IT などを以前から行っている。
 - ・文化的背景の異なる学生や生徒との対話と交流の機会が増えた。
 - ・地域の方との連携や教職員間の連携。
 - ・地域人材、各種研究機関のゲストティーチャーの活用。
 - ・大学職員や学芸員等の外部講師の活用。
 - ・ユネスコスクールに加盟する前から上記選択項目のような活動に努めてきたが、加盟校となることによって、更に自覚を持つことが出来るようになった。
 - ・もともと ESD の要素の入った授業を実践しているので今回大きな変化は見られなかった。



12. 今後のユネスコスクールの活動について、特に重視するべきと考えると考える分野を選択してください。(複数回答可)

- 人種差別の撲滅
- 男女平等
- 民主的な教室運営と市民教育
- 健康と予防教育（エイズ、薬物）
- 貧困軽減教育
- グローバル市民教育
- 文化、世界遺産保護
- ライフスキル教育
- 批判的思考教育
- その他（自由記述）
 - ・異文化理解教育
 - ・グローカル（グローバル・ローカル）マインドの育成
 - ・多文化共生に向けての心理教育的支援
 - ・地球環境の維持
 - ・水資源保護
 - ・ジオパーク
 - ・東日本大震災の復興に関わる教育
 - ・防災教育
 - ・平和学習
 - ・食育（スローフード）
 - ・エネルギー
 - ・キャリア教育
 - ・アントレプレナー教育
 - ・人権・福祉に関わる領域
 - ・高齢社会におけるコミュニティの維持
 - ・社会貢献
 - ・生と性の教育
 - ・ESD 教育活動の充実
 - ・生きる力の向上
 - ・フォーラムディスカッションの心構えと技術
 - ・豊かな心の育み
 - ・他人の親切に気づく感受性開発
 - ・他人への配慮ある振る舞いと態度

・持続発展性が阻害されている時に気づく能力

